

## 金融システム研究フォーラム 概要

第 26 回 2010.4.30 (金)

-----

今回は、三輪が「『法人企業統計季報』個表に見る資金調達側企業の行動」と題して報告し、討議した。

本年夏までの予定で、三輪を代表とする研究者のグループが、財務省の「法人企業統計」（季報と年報）の個表の利用を許可され、現在、鋭意、検討を進めている。個表データを利用するケースに限らないが、研究は、事前の予想通りには進まない。検討途上で、予想外・想定外の事態に直面し、検討課題と検討方法、さらに研究体制を見直し立て直すことは、研究者にとって最大の喜びの 1 つだろう。今回、三輪は主として「季報」の個表を用いて検討を進めている。1997 年～1999 年の“Credit Crunch”の実態と深刻さに焦点を合わせた前回の研究の結論を、中小企業にまで検討範囲を広げて確認することという最初に設定した検討課題に関連して想定外の事態が生じたのではない。

その途上で、予想外の重大な結果に直面し、検討課題・方法、さらに研究体制の見直しが必要と考えるに至った。個表の利用は、基本的に、研究終了後に成果をまとめて公表することになっている。このため、途上で直面した状況・「発見」を公表し、それに対する反応・コメント・助言等を参考にして、「見直し」を進め、体制を再構築するということは想定されていない。今回の会合では、とりわけ個表利用の内容に直接関わる部分への言及・引用は、最終結果の公表以後にさせていただくとの了解の下に、検討途上の内容の一部を報告し、コメント・助言等を求めることとした。同時に、関連する基礎情報として、「法人企業統計」の時系列データ（公表されている）を整理した資料集を提示して、検討の参考資料とした。

次の観察事実が、見直しの契機となった想定外の事態を象徴する。Credit crunch、「貸し渋り」との関連で注目する「金融機関短期借入金」の総資産に対する比率を求めて、その分布を借手企業の資本規模別の階層別に見ると、季報で利用できる最小規模クラス（資本金規模 1,000 万円～2,000 万円）で、median が 2000 年より前に 0 になり、75% 値、90% 値は、その後も一貫して顕著な低下傾向を示している。Median が 0 になる時点はこのクラスで最も早いですが、より大きな規模のクラスでも状況は似ている。つまり、ほとんどの規模クラスで、半分以上の企業の短期借入金残高が 0 という状態が実現し、その状況が継続している。

「1980 年代に大規模優良企業が『資本市場』を積極的に活用することにより『銀行離れ』が現実化した。しかし、これは大規模優良企業にのみ許された例外的事例であって、とりわけ中小企業にとっては銀行との優良な関係の確立・維持が生存・成長に不可欠だ。Banks are the only game in town だ」というのが今日も広く受け入れられている常識・通念だろう。

フォーラムの全参加者がこの観察事実に驚かされた。見方によっては、存在しないと誰もが確信していた「新大陸」の発見のようなことであり、「そうすると・・・」という一連の新たな検討課題が浮上するだろう。席上では、さまざまな見方・意見が錯綜した。

検討の参考資料・関連する基礎情報として提示した、「法人企業統計」の時系列データ（公表されている）を整理した資料集についても、「エ・・・ッ！」という点が少なくなく、「そういうことの専門家はどのように違うことを言っているんですか？」「専門家はいないのですか？」から始まって、議論は多岐に及んだ。

情報の提示と共に今後の検討課題あるいはその方向性を提起することに重点を置き、その後の議論の展開に期待する趣旨であったから、たとえていえば、珍しい、あるいは見たこともない食材・料理を参加者が楽しんだという状況であった。例によって、9時過ぎに、そろそろ着地を目指しましょうか、と言いつつ終りとした。